

おひさま通信

仲間たちの高齢化・重度化

～みんなと一緒に暮らし続けるために～

はれ

障害者支援施設「はれ」が開所し、この春で6年が経ちます。太陽の里や大地の実践で話されていた仲間たちの高齢化、重度化の課題は、はれにはまだ先の話かと思っていました。が、入所した時に50代前半だった仲間が、現在では還暦が目の前に見えてきて、健康面での不安を抱える仲間も少しずつ増えてきました。

章さんの変化

川口太陽の家に30年以上通所し、「はれ」の開所と同時に入所した章さん。以前は自分の好きなように施設内外を動き回っていましたが、加齢と共に身体機能も認知機能も徐々に低下し、歩くことも座位保持も難しくなり、今では車椅子で生活するようになりました。章さんはこだわりが強く、自分の



右が孝雄さん

うように動けない不自由さから、孝雄さんは不安になるのでは…と心配していました。ふれあい生協病院のスタッフの方々の献身的なケアのおかげで、とても楽しそうに過ごしている姿に拍子抜けすると同時に、とても安心することができました。

孝雄さんの「頑張ります！」

手術は無事に成功し、その後は過酷なりハビリが待っていました。起き上がるのがやっと、足をあげるのがやっと…退院後も週2回のリハビリに通いました。退院後にPTの先生から「頑張っても自力での歩行は難しく、人が後ろから支えながらの歩行がゴールではないか…」と言われました。が、奇跡的な回復力と孝雄さんの努力により、約3ヶ月後には歩行器を使用せずに自力で歩けるようになりました。

リハビリは一人で行うことはできません。必ずPTの先生や、「はれ」の職員が孝雄さんに寄り添いながら、

意志がハッキリとしている方なので、こちらからの声掛けに、首を強く横に振ったり、絶対に動かない…というようなことが以前は当たり前でしたが、今ではすんなりと受け入れてくれることの方が多く、逆に切なく感じてしまいます。

今まで見られていなかった発作も起きるようになり、昨年の5月には、けいれん発作が持続したことで呼吸が不安定になり、救急搬送され、一時危ない状態に陥り、緊急入院となりましたが、無事に回復され、またはれに戻ることができました。

みんなで支えてはれで暮らす

退院後、今後について家族と話をしました。医療体制が整っている施設や身体介護の仲間を支えるのに強みのある施設などの選択肢もありますが、やはり章さんにとっては住み慣れた場所である「はれ」で、みんなと一緒にいることが良いだろうという考えに至りました。そのため、安心して住み続けるた



章さん

声をかけます。人と関わるのが大好きな孝雄さんにとって、誰かに励ましてもらったり、頑張りている姿を認めてもらえたりすることが大きな力となりました。

そして孝雄さん自身も病院のスタッフの方、患者さん、会った人みんなに「こんにちは！頑張り続けてください！」「あなたも頑張りなさいね。」など返してもらえると、とても嬉しそうな表情をします。孝雄さんも、きつと誰かを励ましているのかもしれない。最近では受診の相談をしても、頭ごなしに障害があることを理由に断られてしまうケースも多いですが、埼玉協同病院（ふれあい生協病院）はとても理解があり、真の意味で受け入れてもらえているという実感があるからこそ、孝雄さんはいきいきと、頑張ることができたのではないかと思います。

おかえり孝雄さん

退院し、「はれ」に戻ってから、しばらくは車イスや歩行器を使用しての生活に、不自由さを感じていましたが、孝雄さんの生活を改めて考え、リハビリの時間を設けたり、機械浴での入浴を保障したりしました。入浴に関しては、浴槽を跨ぐことが難しかつ

めにどうしたら良いのかを職員で考えました。食事、排泄、入浴などの支援の仕方、居室の環境設定など、今の章さんの状態に合わせた生活に大きく変更することになりました。

その必要性を関係各所に認めていただき、特例で訪問看護、訪問リハビリ、言語聴覚士の訪問が毎週あり、毎月2回医師も往診に来て下さる体制を整えることが出来ました。こうした「特別」が実現できたのは、「はれ」に入所されてから章さんと同じように医療的なサポートが必要になった仲間たちのおかげです。彼らが、そして彼らを支える周りの人達が、この地域の中で手をつなぎ、一緒に支えていってくれる人たちが開拓し、そのサポートに心えるように頑張りつて生きる姿を見せてくれたからこそ、「今」につながっています。

いつも明るい孝雄さんの骨折

章さんと同じく川口太陽の家に30年以上通所し、「はれ」の開所と同時に入所した孝雄さん。

加齢と共に転倒することが増えてしまい、この6年の間に骨折が2回あり、昨年の2月にふれあい生協病院に約1ヶ月の入院をし、人工股関節を入れる手術をすることになりました。約1ヶ月という長い入院生活と思

たのですが、リハビリの成果もあり、昨年の12月から、また再び一般浴槽に入る事ができるようになりました。一番喜ばしかったことは、孝雄さんが退院した後、一緒に生活しているユニットの仲間が「孝雄さんの退院祝いをやりたい」と言ってくれたことです。みんなでジュースで乾杯し、孝雄さんが無事に帰って来られたことをお祝いすることができました。

章さんも孝雄さんも、そして他の仲間たちにとっても、この先、もっと大きな病気やケガがあったとしても、安心して託せる医療機関があること、自分の帰りを待っていてくれる居場所があること、帰って来られたことを一緒に喜び合える人たちがいること、これらが生きる上での大きな柱になると思います。私たちはこの柱が倒れたり、細くなったりせずに、太くしていけるように日々の支援を頑張っていきたいと思っています。

はれ副施設長 中村 亮一



響き

大宮太陽の家

Iさんが昨年のクリスマス会のことをアンケートに書いたことがきっかけとなり、きょうされんから仲間ニュース11月号「冬の過ごし方特集記事」の原稿依頼が届き、Iさんを中心に仲間から意見を募り、文章を考え記事を作成しました。仲間ニュースが届くとIさんもとても喜んでいました。

オレンヂホーム

12月、大掃除シーズン到来。仲間が私物の片付けを手伝って欲しいと言ってきた。嬉しい！たまたま手紙・DVD・コンビニ袋。本人には大切な物も有り確認しながらかたす。きれいになった部屋で新年を迎えられますように。

白岡市デイサービスセンター

12月25日にクリスマス会を行いました。白岡市のクリスマス会は、年に一度、仲間が一斉に集まる大イベントです。ビンゴをしたり、プレゼントを買ったり、ケーキを食べたりして、終始賑やかでした。一年を締めくくる楽しい一日となりました。

サンライズ

年末の冬プロについて11月から仲間自治会で検討をはじめていきます。去年行った企画が良かったという意見もある中で、日帰り温泉にまた行きたい、おやつを作ってみたい、忘年会をしたいとこれまでの要望ができてきています。

シャイン

クリスマス会にはパパ、ママ、おばあちゃんなどたくさんのお客さんが来てくれました。子どもたちは楽しそうに楽器演奏をしたり、サンタクロースの福笑いでは親子で協力してかわいい顔ができあがりました。初めて見るサンタさんにびっくりしてなかなかプレゼントをもらいに行けない子もいましたが、手にした瞬間はみんな嬉しそうな顔をしていました。

はれ

年末のクリスマス会では、ピアノの演奏会やサンタさんにプレゼントをもらい、チキンとケーキで楽しみました。大晦日は忘年会、みんなで乾杯をして、スライドショーやビンゴ大会で盛り上がりました。お正月はケーキ作り、餅つき、初詣をしてみんなで新年をお祝いしました。